

MINATO×東京2020レガシーイベントの開催について

新型コロナウイルス感染症の影響により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」といいます。）の学校連携観戦の中止や学校行事の制限を受けてきた幼児、児童及び生徒が、東京2020大会のメイン会場である国立競技場において、競技の体験やアスリートとの交流等を通して、東京2020大会を心に刻み、レガシーとして学び続ける契機とするため、「MINATO×東京2020レガシーイベント」を開催します。

1 日時

令和5年3月21日（火・祝）午前11時から午後4時まで（入退場自由）

※ 小雨決行、荒天の場合は中止。

※ 開場は、午前9時。

※ 学校対抗4×100mリレー大会（予選）は、午前9時30分より開始。

2 場所

国立競技場（東京都新宿区霞ヶ丘町10-1）

※ 会場の図面については、**別紙1**を参照。

3 対象

(1) イベント見学（入退場自由）

区民

(2) 体験教室等の一部プログラム

0歳から15歳までの区内在住、在学・在園の子どもとその保護者

4 参加費

無料

5 プログラム

(1) スペシャルトークショー

(2) 体験教室（ボルダリング、ラグビー、サッカー、走り方、ダンス、パラスポーツ等）

(3) 親子ファンラン、100m走レガシー体験

(4) 国立競技場バックヤードツアー

(5) レガシー記念撮影（表彰台での記念撮影）

(6) 東京2020アーカイブ資産等展示 等

6 参加申込方法

すべての参加者は、特設サイト (<https://www.minato-legacy.com/>) から、2月28日(火)までに申し込みが必要です。

なお、体験教室等の一部のプログラムは、2月8日(水)から申し込みを開始します。

7 主なゲストアスリート

伊藤 華英さん(元競泳)、山縣 亮太選手(陸上)、野口 啓代選手(スポーツクライミング)、高田 千明選手(パラ陸上)が対談予定です。

※ 主なゲストアスリートのプロフィールについては、**別紙2**を参照。

8 当日の流れ

午前 9時	開場
午前 9時30分	学校対抗リレー予選
午前11時	開会式
午前11時30分	学校対抗リレー本選
午後 0時20分	親子ファンラン
午後 0時40分	各プログラムの開始
午後 3時40分	各プログラムの終了
午後 3時50分	閉会式

※ 各プログラムを含む、全体のタイムテーブル(予定)は、**別紙3**を参照。

9 経費

40,150,000円(イベント運營業務委託)

10 感染症対策

- (1) 受付・入場時に検温、手指消毒を徹底し、マスクの着用等の基本的な感染症対策を徹底します。
- (2) 新型コロナウイルスの感染状況によりイベントの中止又は変更等を検討します。

主なゲストアスリート（令和5年1月末日現在）

伊藤 華英さん（元競泳）

15歳で日本選手権に初出場、女子背泳ぎ選手として注目される。2008年日本選手権 100m背泳ぎで日本記録を樹立、2008年北京五輪、2012年ロンドン五輪で日本代表。現在は水泳とピラティスの素晴らしさを多くの人に伝えたいとマットピラティスコーチとしても活動中。

スポーツ指導者を目指す男子学生に向けた授業、生理とスポーツの教育／情報発信活動「1252プロジェクト」を開始している。

順天堂大学スポーツ健康科学部 博士号



山縣 亮太選手（陸上）

1992年、広島生まれ。

修道高等学校、慶應義塾大学を経て、現在はセイコーグループ株式会社社員アスリート。

リオデジャネイロ五輪男子4×100mリレーの第一走者として、銀メダル獲得に貢献。個人では、五輪における日本選手史上最速を記録したトップスプリンター。

東京五輪では日本選手団主将を務める。

自己ベストは 100m 9秒95。

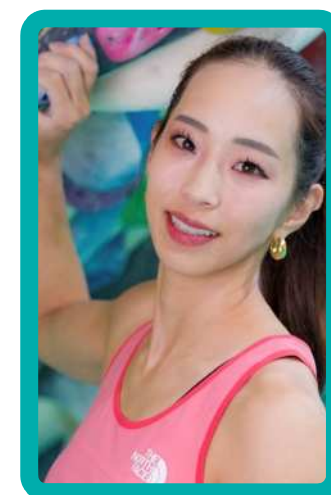


野口 啓代選手（スポーツクライミング）

1989年5月30日生まれ。小学5年生の時、家族旅行のグアムでフリークライミングに出会い、翌年行われた全日本ユース選手権では中高生を抑え、優勝するなど瞬く間に頭角を現す。2008年、ボルダリングワールドカップで日本人初優勝。その後は年間優勝を4度獲得、ワールドカップは通算21勝を数える。

国内大会においてもスピード、ボルダリング、リード、コンバインドの全種目のジャパンカップ制覇の偉業を成し遂げ、競技人生の集大成と位置づけた東京五輪では銅メダルを獲得。

引退後のセカンドキャリアとしてアカデミー運営や大会招致等様々な目標を掲げ、今なお進化し続ける日本が世界に誇る女性クライマー。



高田 千明選手（パラ陸上）

生まれたときから視覚に障がいがあり、20歳くらいのときに視力を完全に失う。

22歳から本格的に陸上を始め、走り幅跳びで2016年リオパラリンピック、東京2020パラリンピックに2大会連続で出場し、東京では日本記録更新と5位入賞を果たす。



